

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
技術科長	河野 栄治
統括主査	中谷 暁洋
学術主査	岩本 匡史
主 査	為廣 理沙子
	町田 麻実
	小谷 哲也
	吉田 光海
	佐々木 啓人
	奥田 重之
	三角 定弘
	中平 大志
	坂元 宏美
	金口 優生
	森田 庸介<4月就職>
	西 祐樹<4月就職>
	西川 敏功<2月末退職>

—概要—

2015年度は「森田庸介」「西 祐樹」「西川敏功」の3名を新しく迎え、17名体制でのスタートとなった。

今年度の業務課題として「日当直」「オンコール」を行える人材の育成、業務レベルの向上と業務体制を課題とした。

昨年度から開始した当直業務において、今まで以上に幅広い業務スキルを求められる事を実感し、今年度の基本指針として引き続き『臨床工学業務体制構築と要求に応える力量の獲得』とした。

臨床工学科の組織構造としては経験10年以上のスタッフ6名と経験5年未満のスタッフ7名という中堅層が薄いこともあり、昨年度と同様に中堅層の充実が必要と感じたが、各スタッフが積極的に既存の認定だけでなく心血管インターベンション技師(ITE)認定資格やCPAP療法士認定など新しい資格に挑戦、取得し確実に中堅層の充実につながっていると感じた。

循環器心臓関連業務ではペースメーカー等のデバイスチェックが昨年度に比べ1.4倍と増加し、呼吸関連業務としては在宅CPAP(Continuous Positive Airway Pressure)療法にともない、従来の簡易型睡眠時無呼吸検査から終夜睡眠ポリグラフィーPSG(Poly Somno Graphy)検査による精査に臨床工学科として力を入れた。血液浄化関連業務としては血液透析、持続血液浄化の件数が3,431件となり、特に持続血液浄化はここ数年で大幅に増加した。また、血液成分採取装置が新しく更新され血液内科の充実とともに、末梢血幹細胞採取が再開された。機器管理業においては修

理・点検依頼件数は1,107件と昨年と同程度であったが、経年劣化の機器は目立った感があつた。

11月には一昨年から開始している当直業務から丸1年を経過し、開始前の予想通り、時間外の業務件数2,010件と大幅な増加を見せた。

呼吸機器院内ラウンド、ポンプ使用状況確認ラウンドなど昨年の1.5倍～2倍とラウンド回数も増やした。これにより院内機器の把握が改善され、レンタル機器等の有効活用にも役立った。

特筆すべき出来事として、2月下旬から3月上旬に掛け、臨床工学科にインフルエンザが蔓延し5人が罹患し、同時期に体調不良1名、病休者1名、退職者1名という臨床工学科始まって以来の一時的とはいえ大量欠勤者、欠員が発生したが、残った若手スタッフの努力と他部門の協力を得て、業務停止する事無く遂行することが出来た。

<取得認定資格>

資 格	人数
体外循環技術認定士	3名
3学会合同呼吸療法認定士	10名
CPAP療法士認定	1名
不整脈治療専門工学技士	1名
心血管インターベンション技師(ITE)認定	4名
CDR(PM/ICD)関連情報担当者認定	1名
透析技術認定士	9名
アフレーシス技術認定士	1名
臨床ME専門認定士	4名
医療機器情報コミュニケーターMDIC認定	2名

—実績—

血液浄化関連業務(救命センター含む)

血液浄化センター血液透析施行回数	2,092件
ICU/CCU血液浄化件数(持続血液器濾過透析含む)	1,339件 (救命491件)
特殊血液浄化(血漿交換・血液吸着療法など)	8件
LDL吸着療法	21件
エンドキシン吸着療法	6件
腹水濃縮再静注法	2件
末梢血幹細胞採取	4件

体外循環関連業務(救命センター含む)/手術室関連業務

全体体外循環症例	85症例 (うち緊急/準緊急症例22例)
通常体外循環法	58症例
脳分離体外循環法	23症例
超低体温循環停止法	1症例
Off pump CABG	1症例
EVAR(Endovascular aneurysm repair)	18症例
TEVAR(Thoracic endovascular aortic repair)	12症例
自己血回収業務 (体外循環業務及び準備のみに付随するものを除く)	12例

補助循環関連

経皮的心肺補助症例	42例
大動脈バルーンパンピング症例	41例

心臓カテーテル検査関連

循環器カテーテル検査	1,079症例
冠動脈造影	1,075症例
経皮的冠動脈形成術	422症例
緊急カテ症例	233症例
EPS(Electrophysiological study)	19例

血管内検査

IVUS	471症例
OCT	55症例
FFR	29症例

不整脈デバイス関連業務

ペースメーカー新規埋め込み術	35症例
ペースメーカー本体交換術	16症例
埋め込み型除細動器埋め込み術	5症例
埋め込み型除細動器交換術	1症例
両心室ペースメーカー埋め込み術	1症例
両心室ペースメーカー交換術	1症例
両室ペーシング機能付き埋め込み型除細動器埋め込み術	5症例
遠隔ホームモニタリングシステム導入、実施症例	29症例
ペースメーカー等デバイスチェック(術中・術後・外来・遠隔)	1,280回

人工呼吸器・麻酔器関連業務

内ラウンド回数	167回
RCT(Respiratory Care Team) 関連 患者依頼件数	13件
人工呼吸器離脱件数	10件

睡眠時無呼吸治療関連

簡易PSG(Poly SomnoGraphy) 検査	48件
終夜経皮的動脈血酸素飽和度測定	5件
終夜睡眠ポリグラフィ(PSG検査)	39件
CPAP外来	40件
CPAP導入	28件
HOT(Home Oxygen Therapy) 導入	1件

呼吸関連勉強会

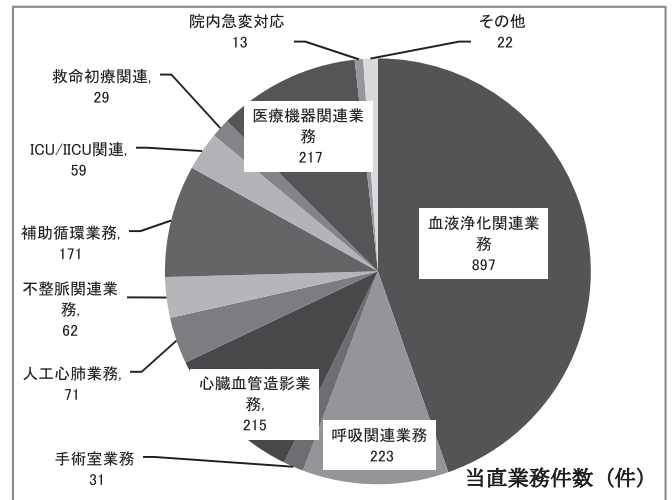
病棟勉強会	10回
-------	-----

手術室関連業務

ラジオ波焼灼療法	全15症例
乳腺腫瘍	6例
肝臓腫瘍	9例
自己血回収装置準備(整形外科関連)	96例

機器管理業務

登録機器	179件
修理依頼/点検件数	1,107件
医療機器貸出件数	1,096件
ポンプ使用状況確認ラウンド	119回



—今年度の成果と反省点—

成果としては日本臨床工学会全国大会に3演題提出し臨床工学技士経験2年のスタッフ2名が2題を発表また、口演・座長など対外的な活動は例年より活発に出来た。

また、新たな資格として心血管インターベンション技師(ITE)認定資格を4名が取得した。

反省点としてはインフルエンザによる感染が科内に蔓延し、多方面に心配を掛ける結果と成り、これがインフルエンザでなく法定伝染病であったら病院の存続に係わることになるかと猛省した。

—来年度への抱負—

当直業務を行う事は幅広い知識や経験が必要である。また、逆に日々の業務では専門性が求められる。これに対応べく、スタッフに専門を持たせながら、当直業務における幅広い知識を維持し日常業務における専門知識の充実を図りたいと考えている。